

# 読むこと①

## 第1学年

場面の様子について、想像を広げながら読み、文章の内容と自分の経験を結び付けて、自分の考えをまとめること

### つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

自分の経験と結び付けて想像豊かに読み、自分の考えをまとめたり広げたりできない。

気持ちを想像する時、表面的な感情表現のみになっている。

浅い読みにとどまっている。

エルフへ  
エルフは世界でい  
ちばんすばらしい  
犬だよ。  
まい日いっしょに  
あそんでたのしかっ  
たね。  
エルフがしんでし  
まってかなしいよ。

教科書の記述をそのまま書いている。

### 実践の概要

単元名

おはなしのおみせやさんごっこをしよう

『ずうっと、ずっと、大すきだよ』光村図書

目標 登場人物の言動を中心に想像を広げ、その時の中心人物の気持ちを感じながら読むことができる。

- 内容
- 場面ごとに中心人物の言動を根拠にして、その時の気持ちを想像してワークシートに書き、自分の考えをまとめる。
  - 登場人物に手紙を書いて交流し、自分と友達との感じ方の共通点や相違点に気づき、考えを広げたり、深めたりする。

### 学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	自分の感じたことを、朗読で表現しよう	作者の思いを読み取るだけになって、自分の経験や思いを関連付けて、読みを深めることができない。
第5学年	説明の仕方の工夫を見つけ、話し合おう	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文をもとに文章の構成・構造をとらえられない。</li> <li>自分の考えを述べるときに、自分の知識や経験と結び付けながら説明することができない。</li> </ul>
第4学年	段落どうしの関係をとらえ、説明の仕方について考えよう	段落相互の関係を考えたり、叙述を自分の経験や知識と関係付けて主体的に読み深めたりできない。
第3学年	心にのこったことを、自分の言葉で表そう	伝えたいことを条件に合わせて、まとめて書くことができない。
第2学年	知っていることとつなげて読もう	長文になると、「問い」に対する「答え」の部分が見分けられない。
第1学年	おはなしのおみせやさんごっこをしよう	自分の経験と結び付けて想像豊かに読み、自分の考えをまとめたり広げたりできない。

### 単元末の目指す姿

- 友達と交流する中で、なぜそう思うかそのわけを本文の中に見出したり、自分の経験と結び付けて考えたりできるようになる。
- 自分だけでは気付かなかったことに思いが向き、新しい考えを得たことに「なるほど」と喜び、他にはどうだろうかと考えを広げることができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

構造的な板書をデザインする。

活動のねらい ▶ 1時間の流れが視覚的にわかるようにデザインすることによって、児童の想像を誘い、広げ、中心人物の気持ちを豊かに想像させることができる。

板書

♡カードの貼り方を工夫し、「エルフ」に集中していた「ぼく」の気持ちが横に広がったことが想像できる。

紙板書を活用し、集中して書くことと思考の焦点化を図る。

カードに書くことにより、キーワードを強調する。



「めあて」との整合性がある「まとめ」にする。

自分の言葉で発言した練り合いを中心に書く。

心情曲線や矢印により、「ぼく」の気持ちの変容がわかる。

挿絵を2枚に厳選し、高低差をつけて貼ることにより思考を支える。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

登場人物へ手紙を書き、友達と交流する活動を行う。

活動のねらい ▶ キーワードに着目しながら、自分の考えや想像を広げる。

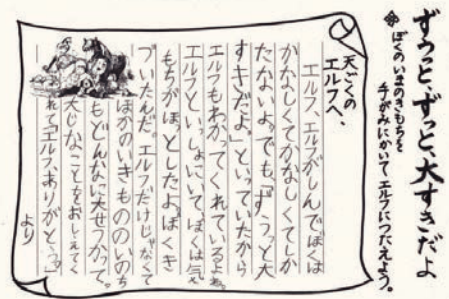
ここがポイント

- キーワードやそれにつながる言葉を教師と一緒にワークシートに書かせることで、登場人物の気持ちを想像する視点をもたせる。
- ワークシートをもとに手紙を書く。友達と交流する際には、キーワードや登場人物の心情、自分の考えが表れているかなど、交流する視点について板書を用いて確認する。

授業の様子



なるほど、だからエルフに「ありがとう」と思っているんだね。ぼくもそれを書き足すよ。



(期待される児童の姿)

友達と交流することによって様々な感じ方があることを知り、なるほどと思ったり、反対したりして、自分の考えを広げたり深めたりさせることができる。